

東京2020オリンピック聖火リレー点火セレモニー 多摩市長挨拶

いよいよ東京オリンピックの開幕まで2週間となりました。

新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックにより、開催は1年延期されたものの、依然として収束していません。オリンピックの開催については内外からも様々な声が聞こえてきます。賛成、反対、中止、延期などなど。ついに無観客開催となりました。今回のオリンピックほど世界の人々が国境、人種、宗教などを超え、オリンピックの本来の意義、オリンピック憲章の原点を想起することはなかったのではないのでしょうか。

私たちは改めて医療従事者をはじめ多くのエッセンシャルワーカーの皆さんに支えられていることに感謝し、飲食業の方々など大変なご苦勞をされている方がいらっしゃることを念頭に置かなければなりません。多くの市民が様々なことを我慢し、耐えている日々です。多摩市でも、度重なる「緊急事態宣言」への対応、目下のワクチン接種など、市民、議会、行政が一丸となって命や暮らしを守るべく新型コロナウイルス感染症と闘ってきました。そして様々な思いが駆け巡りながらも国内唯一のアイランドのホストタウンとしても東京2020大会への準備を進めてきました。

本来ならば、本日、我が多摩市で第1走者の掲げ持つトーチに東京2020オリンピック聖火が灯され、多くの観客が見守る中で、オリンピック開幕への期待をリレーでつなぎ、その喜びと感動を市民の皆さんとともに心に刻むはずでした。その出発式と公道でのリレー走行は実施されないこととなり、この日を心待ちにしていた聖火ランナーと市民の皆さんも無念の気持ちでいっぱいと思います。

しかしながら、無観客という形ではありますが、ランナーの皆さんがオリンピック聖火をトーチでつないでいく点火セレモニーを開催することができました。出発式で演奏する予定だった多摩市立落合中学校吹奏楽部の皆さんも、映像という形で参加させていただきました。このセレモニーの実現に向け、尽力いただいた東京都聖火リレー実行委員会、組織委員会の皆さんに心から感謝申し上げます。

今日、聖火をつなげる喜びは、オリンピック憲章がうたっている、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の確立を、次の時代を担う子どもたちへ伝え、広めていくことでもあると、私は考えています。新型コロナウイルス感染症の状況は予断を許しませんが、ランナーの皆さんの笑顔、オリンピック聖火の輝きがきっと明るい未来をもたらしてくれると信じています。

そして東京2020オリンピックの大会ビジョン、全ての人が自己ベストを目指し、一人ひとりが互いを認め合い、そして未来につなげよう、との3つの基本コンセプトを大切にポジティブな大会としましょう。本日はよろしく申し上げます。

令和3年7月10日

多摩市長 阿部裕行